

1人1台端末の効果的な活用に向けた取組

越前市服間小学校

昨年度より「GIGA スクール構想の実現」が本格的に導入され、本校でも児童が主体的に学習に取り組めるように、iPad を効果的に使用方法の研究を推進してきた。本年度は、さらに本校の研究目標「主体的・対話的で深い学びができる子どもの育成～学ぶ意欲を継続できる授業の工夫～」を目指し、効果的な端末の活用を目指して、以下のような取り組みを行った。

①「とにかくやってみよう」

昨年度から引き続き、教員が失敗を恐れずに意欲的に端末を使ってみることを心がけた。使いながらそれぞれの使い方のメリット・デメリットをさがし、積極的に情報交換をすることで、全体の経験値を上げていくことを目指した。

②「効果的な使い方をみつけよう」

各自の実践を、現職教育で伝え合ったり、「授業力アップ週間」で授業参観をしあったりして、上手くいったこと上手くいかなかったことの意見交換の機会を増やした。実践を重ねることで、より効果的な使い方を共有できるようにした。

③「児童が主体的に端末を使用できる場面をつくろう」

昨年度から、学習や委員会活動などさまざまな場面でiPad を使用してきた。今年度は、その経験を活かし、教師主導ではなく、児童が主体的に使うことができるような場면을工夫して増やすようにした。

効果的な使い方の実践① 【手軽に書き込みが出来る。】

iPad は、手段であって目的ではない。そのため、一時間の授業中にiPad をずっと使うのではなく、ピンポイントで使用するにはどのような場面で使用するとよいかを考えた。iPad の良い点の一つに、字を書くことに苦手意識を持つ児童の抵抗が少なく、直したいときにすぐに直せることがある。したがって、自分の気が付いたことや感想などを書き込むメモのような使い方が効果的であった。半面、特に小学校低学年では、「書く」学習が重要であることから、授業中にそれぞれがバランスよく配置されることが重要であることがわかった。

効果的な使い方の実践② 【意見の共有ができる】

高学年になると、グループで話し合ったことをクラス全体で共有することが

必要な場面が増える。意見を集める時に、メタモジークラスシートを活用し、共有化を図ることは、効率的で効果的であった。また、6年生が体育大会での応援練習について、1～5年生の各学年での様子や反省点等をすぐに共有して、改善点を話し合う場面等で teams を使用し、効果を上げていた。さらに、委員会活動でアンケートや伝えたいことを Forms で学校全体にすばやく伝えることができていた。



半面、手作りのポスターや賞状など、グループで話し合いながら作成することの良さも体験させることが重要である。

効果的な使い方の実践③ 【児童による動画やシートの作成】

昨年度から、いろいろな場面で iPad を操作する経験を積んだことで、学習活動中に児童から iPad を使用することの提案が増えた。また、iPad を使用する活動で、自分たちで主体的に考え、企画し、作成する場面が増えた。委員会活動のような異学年で構成するグループでも、自分たちだけで考え操作することができるようになった。これは、4～6年の各学年において同じような経験をしないと無理であるが、それぞれの学年に応じた場面で積極的に使用してきた成果であると考え。今後も、児童が主体的に活動できるツールとして、iPad の効果的な使用を進めていきたい。



効果的な使い方の実践④ 【自分のペースで学習する】

本年度から、試験的に個人学習ソフトを活用している。これによって、児童が自分のペースで個別学習に取り組むことができる。児童は、隙間時間等を利用しながら意欲的に取り組んでいる。自分のペースで取り組めることで、より達成感を味わえるようで、進んで取り組む姿が見られる。

昨年度からの 2 年間の活動で、授業や活動のねらいに応じた効果的な使い方がだんだんできるようになってきた。今後は、小学校 6 年間を通して、どのようなステップで情報活用能力、タブレット活用スキルを高めていくかを系統的に計画する必要があると考える。各学年での経験をもとに情報を共有して、学校全体で取り組んでいきたい。